

子どもの可能性を見つめて

人の誕生は、羊水の世界から空気の世界へと環境を変えるすさまじい瞬間を乗り越えます。

赤ちゃんは、空気を吸った瞬間の驚きで羊水を吐き出して、

その反動でたくさんの空気を体内へ送り込み、呼吸の生活が始まった証に産声をあげます。

その無意識の中にある生命力、判断力、直感力、、果てしない可能性を感じるのです。

発達の秩序は子ども自身が知っています。

おとなができるのは必要な準備と文化的な習慣を身につけるための工夫、

それ以外は自分で模索してたどり着くことができるのです。

自由

活動の始まりと終わりはおとなの段取りが重要ですが、表現活動に入ったら、そこは子どもの自由な世界です。

おとなが答えを求めたり評価をするモノではありません。

例えば、絵の具を使ってかぼちゃを題材に絵を描きます。

大抵の子どもは、色の作り方や構図に頭を悩ませています、

中には人の顔に見える絵を夢中になって描いている子もいます。

お友だちが、かぼちゃじゃないと言っても彼は描き続けています。

彼にはかぼちゃが顔のように見えたのかも知れないし、表現活動にこたえはありません。

自由な発想と自由な表現は、子ども自身を開放して満たしてくれます。

子どもの感性におとなが踏み込んではいけません。

秩序

例えば、新しい道具の使い方を説明すると子どもは真剣に聞いています。

それは、聞いておきたいと言う意思が子どもにあるから、聞くと言う選択をしているのです。

使い方が違っていれば、もう一度説明をして訂正しますが、それでも子どもはきちんと聞いています。

片付けの仕方も同じです。

おとなが子どもの発達にあった工夫をして、わかりやすく説明をすれば、子どもはそのようにしたいのです。

習慣が身につかないのはおとなの工夫に矛盾があるからです。

みなさんは長距離フライトで時差ボケを体験した事がありますか？
時差ぼけは、太陽と体のリズムの矛盾です。違う国へ短時間で移動することによる脳の混乱によって心身共に疲れ果て、回復までに数日はかかります。
日常の生活では、その矛盾は起きませんが、
脳は照明の光を太陽の光と同じように捉えて、矛盾を感じて混乱します。
特に子どもの睡眠に支障を来すので、
眠りにつくまでの数時間は照明を徐々に弱くするなどの配慮が望ましいと感じます。
パソコンやテレビ、ゲームなどの光も使い方に注意が必要です。
子どもの生活は、運動と食事と睡眠のリズムが密接に影響し合っています。
眠りが浅いと機嫌が悪くなります。運動が足りなければ食事は進みません。
食事の時間がずれ込むと睡眠時間も遅くなって、朝日を浴びることができません。
朝の太陽の光を全身に浴びて、窓を開けて空気を入れ替える、
深呼吸をして体内時計がリズム良く動き始める習慣が必要です。
体内時計を整えなくては、子どももおとなも混乱してしんどくなります。
落ち着いた日常には秩序のある生活が必要なのです。

私たちは秩序と自由のバランスが整うことで、
健やかで文化的な生活が成り立つと考えています。
保育園を巣立っていく日は必ずきます。
いろいろな場面に直面しますが、どんな環境でも夢中になれる何かを見つけて、
自分らしく生きてほしいと思います。
少し先に願いをこめて。
